

第6回光市まちづくり市民協議会 都市・産業部会

日時：令和3年8月5日（木）18：30～20：05

会場：光市役所3階 大会議室 1・2・3号

出席者 委員 12人（欠席2人）

事務局 6人

1 事務連絡

事務局による委員変更の案内、資料の説明、前回会議の質疑への回答

2 議題

（1）第3次光市総合計画（分野別計画）について

●委員

97 ページに関して。政策1の良好な都市空間とあるが、良好だというのを何をもって良好とするのがよくわからないと思うので、あるいは、光駅拠点整備で本市に相応しい、光の空間づくりをすると、光市に相応しいと言うのはどのようなことなのか、両方とも具体的なイメージが湧かない。湧くような言葉を選んで使ってほしい。

例えば、良好な都市空間といたら、魅力的な都市空間とか言った方が、まだイメージしやすいような気がする。個人的な意見で申し訳ない。

それから本市に相応しい光駅というのは、まさに光駅は光市の玄関になるので、ここに降り立った時に、光の全貌が魅力的に全部見えてくると、光に住みたいと、光をちょっとあちこち巡ってみたいと思うような、玄関口にしてほしい。

「相応しい」とはどういうことか、よく分からない。イメージが。それと駅に関しては、光駅と岩田駅を中心に物事を進めるというふうには書いてあるが、それでもいいが、基本的に光の地域を巡る幹線はJRがあり、その中で島田駅も重要な拠点である。だからJR駅としては、この3つの駅を中心にして、特に光駅と岩田を重点的にやることはいいが、島田駅に何も触れないのは少し問題だと思う。

鉄道はそうとして、鉄道でない幹線、光市役所を通過して室積方面に行く幹線道路。これについて触れられてないので、道路の拠点として室積の位置づけをしてほしいと思った。光駅から室積の間に、光市役所なり中央地域があり、これが最も大きな拠点になる訳で、この光駅を結ぶ道路幹線とそれに繋がるJR幹線、その位置づけを明確に示していただきたい。

●事務局

ありがとうございました。光の玄関口である光駅は、そこからまっすぐ進むと光市の綺麗な虹ヶ浜に繋がる。今、光駅拠点整備基本計画に基づいて、これから事業を進める事と

している。そのあたりを一言、相応しい「ふさわしい」という言葉で表現しているが、少しイメージ出来るような表現ができたらと思う。

また、島田駅は当然に重要な駅の一つであり、その辺を少し表現が出来たらと思う。

市役所から室積、まさにこの幹線道路、国道 188 号になると思うが、そのあたりを中心にまちづくりは、昔、海軍工廠の時代からずっと続いてきているので、そのあたりも少し良い表現があれば、考えてみたい。

●事務局

表現については、それぞれ所管課の話の場合もあるので、いただいた意見を中心に各課と協議して、より良い物になれば変えたいと思う。

島田駅や室積の辺りについては、例えば 103 ページの「公共交通ネットワークの構築」に、島田駅を取り扱っている。この良好な都市空間という部分については、島田駅自体に政策的な計画が無いものですから、こちらについては光駅と岩田駅と言う事に整理させていただいている。島田駅や交通結節機能として必要な物は、現時点では公共交通ネットワークの構築で整備させていただいている。島田駅をこの政策 1 の中で取り扱うかは、こちらで検討させていただければと思う。

●委員

6月の定例議会で、第3次総合計画についての一般質問があったと思う。その中で市長さんの言葉に、新たな課題に柔軟に対応すること、もう一つは、やさしさを未来に届けるたくましさ、それから地域や世代を超えたつながり、と3つ挙げられたが、市長さんが言われたことに対して、市は責任をもって具体的に話を進めないとならないと思う。光駅の問題は、もう15年位前から、エレベーターをつけるとかつけないとかいう話があった。総合的に到達しうるモニュメントというか、到達する計画はせっかく都市計画ということだから、光駅と虹ヶ浜を結んだ自然に溶け込んだ美しい光駅を作りましょう、ということだろうと思うが、それを具体的に例えば発泡スチロールなどで、具体的に都市計画みたいに、下松駅の時にやったと思う。そういう具体的な案が出てきていない。

それから、やさしさを未来に続けるたくましさというのがあるが、地域の者が地域のことを考えて、地域の理想的なあるべき姿を自分たちで成し遂げようという形のものだろうと思う。それを総合して、光市全体としてはどうするのが具体的にまだない。光市の良さをどう地域の人は認識しているのか、という具体的なものが欲しい。

それから、住宅環境については、もう15年位前か。武田薬品が増築して大阪から何十人か転勤で来られるのに対して、仕事は武田薬品の工場、住むところは下松の商用地。なぜ自然豊かな光市に自分が住む場所を求めないのかと疑問があっしょうがない。これは前から言われていると思うが、光市と下松市のやり方、進め方は違ってもいいが、私が見ていると、下松は、先に先に実現しているような感じがしてならない。それに負けないように具体的に何をするのか。この3つの総合計画の視点、これについてちゃんと具体的な

ものを出していただければと思う。

それから、公共交通の問題についてこれは、駅だけの問題、始発だけの問題ではなく、ぐるりんバス、防長バス、市営バスなどがあるが、乗り手がいない。ぜんぜん乗り手がいない。はっきり言って、乗り手という、朝の病院に行くバスと帰りの学校帰りの生徒が乗るバスといった感じで、あとはからっぽ。これは公共交通の意味をなしていないのではないかと。本当の公共交通というのは、みんなが利用して初めて活かされるのではないかという気がする。これがなされてない。実際に周防の足を、買い物難民とか、病院難民とか、どうしようかと検討したことあるが、結局はもう、市のほうに頼るよりも、自分たちでお任せをしてもらおうかと。お互いに各地域で乗せあいというか、自家用車にここまで行くから乗る。というやりかた。そういうやり方で済ませようかということで進めている。これは上島田でもそうだ。本当に公共交通の大切さが分かってない。それを知ろうともしていない。そういう環境じゃないかという気がする。

6月の議会で総合計画の話があった。具体的な3本柱は出たのだから。それに対してこれはこうだよ、これはこういう風になる、恐らく5年後はこうなるというような。ターゲットとする目標がはっきりしないのが現状。具体的に光駅1つでも、光駅だけを集中的に改造するのではなくて、虹ヶ浜を取り込んだ総合的な自然の光駅を模索するべきではないのかという気がしてならない。

●事務局

ありがとうございました。まず、光駅だが、98ページを少しご覧いただきたい。(4)に光駅近接エリア整備の推進だが、今まさに、整備計画を立てて実行に移っていく段階にある。こちらの文面にもテーマを、人・交通・自然をつなぐ、つながる光駅、これをコンセプトにしなが、虹ヶ浜海岸とのつながり、これを感じられる自然と調和をした空間を作っていこうと、いうコンセプトを持っている。

光駅が交通の結節点となるように、多くの人が行き交い、集まり、つながる交流の場。こうしたものにもなるように、具体的には、南北自由通路の更新。また南口、北口駅前広場の機能の充実。さらにはさまざまな再配置、こうしたことを、今進めようというのが具体的な事例として、言えるかと思っている。

それと対話については、地域の考えをぜひ聞かしてもらいたいということで、今回、市民対話集会ができなかったことで、コミュニティセンターに協力をいただき、「未来につながるまちづくり提言板」によって、意見をいただいて、それを計画に取り込みたいと鋭意努力をしているところ。

公共交通については、103ページ、総合計画の特性上、少しおおまかなコンセプトまでしか記入していないが、公共交通ネットワークの構築に向けて、光市地域公共交通計画、こちらを市民の皆様と話をさせていただき、具体的な計画を作っていくことにしている。この中でしっかり本市が目指す公共交通ネットワーク、このあたりを実現させていきたい。

●委員

要は、市民が本当に市政と一緒に考えてやろうという場所、コミュニティセンターを中心とした、活動の中から生まれてくるものを、市政に反映したような形が一番いいのではないかと。その辺が具体的に、コミュニティセンターで何をどうするのか。こんな時期だから今はできないかもしれないが、積極的に対話集会をしながら、身近な市政であってほしい。

もう1つは、住みやすい光市ということであれば、いろんな面で土地や家屋の問題とか、緩和される場所は緩和していただきたいというふうにする。なかなか、平地を豊かにして魅力的な光市かということ、下松と比べれば、商業的なものはあまりないし、具体的なものはない。それから企業さんにおいても、昔は自分も10年前は、武田さんと新日鉄さんで万歳よと言っていたが、いまはそれが期待できないとすると、やはり中小企業の方々とか、そういう働く場をもう少し柔軟に、従業員に視点を置いた活動を企業に求めるとか。そういう具体的なものをもっと出していただきたい。

●事務局

少し補足をさせていただく。6月の議会で、市長が3つ考え方を述べた。新たな課題に柔軟に対応するそういったしなやかさを持ちたいということと、たくましさ、地域を超えたつながりを再構築していきたい。そのようなことを確かに申し上げた。

そうした考えが示されているので、計画の中で、コンセプトのもと、整理を進めていきたいと思っている。それから、光駅につきましては、現在基本設計等を行っているところで、事業が進めばある程度、姿かたちが具体的なものを示せる時期も来るのではないかと。今しばらくお待ちいただきたい。

公共交通につきましては、今計画の策定中であり、地域で意見交換、ワークショップをこれまで重ねているので、今しばらくお待ちいただきたい。

あと、地域との対話については、こういう状況であるため、なかなか予定通りにいかない部分もあった。ただ、コロナの状況を見ながらになるかもしれないが、この対話事業というのは、市長が大変力を入れているとことは間違いない。

この計画を作った後も、できる限り地域に出向いていけるように、市長ともどもこの辺は共有していきたいと、いろいろ検討していきたいと思っている。

●委員

126ページについて。商工業の振興で、地域経済情勢に応じた支援、経済対策、こういったことを挙げておられる。今回の新型コロナの影響で、一年半以上も日本国民が苦しんでいる。そういった中で、いろいろ思うが、経済に与える影響は非常に大きかったと思う。

幸いにして光市がワクチンの接種率で早い段階で進んでいるし、発生した患者さんも少ない。だけど、ウイルスが伝播していく状況を、もう少し光市なら光市民が全体に理屈を勉強していく必要がある。また、具体的には、危険予知という形の捉えかたで、学校教育

の時から、子どもらに感染症とはどういうものだと、徹底的に教育をしておかないと、やっぱり快適なまちはできないのではないかと。

今東京で報道関係がやるのは、酒を飲みにいけないから路上で酒を飲む、これが実態として放送されている。だけど、いいか悪いかは誰も言わない。放任しているのではないかと。もっと小さい時から、それはいけないことだと。なぜいけないことかを教育の中でやっていかないと。

新しい病気が入ってきて、伝染してしまうと企業だって困る。1人2人クラスターを起こして、みんなが休むと企業活動ができない。商業活動できない。全員が死んでしまったらどうしようもない。生きるためにどうするかを、小さい時から教育し、お互いが認識しあう、光市独自でもいいから、新しい感染症が出てきたら、光市としては、どういう行動をしますと、行動指針を作る。そうすると、少しは意識が違うのではないかと。

●委員

光には武田薬品というトップメーカーがいる。彼らは健康のプロフェッショナルだ。だから、光市のトップと武田薬品のトップがそういう施策を具体的に進めていく特別な委員会や組織を作ればいいと思う。とにかく光のトップと武田のトップが、目的意識をもって議論するというか、武田を光市の重要な専門家として使うことを宣言してもらいたいと思う。

●事務局

ありがとうございました。少し簡単にお答えできたらと思う。これからの新しい感染症対策、この辺りが必要ではないかというご意見をいただいた。資料の68ページ、まさに委員さんと同じく、私どもも、同じような認識をもっている。健康福祉の分野で、今回の計画から感染症対策の推進を、新たに特出しして、ひとつの政策としている。新しい感染症、コロナをはじめ、これらへの対策が非常に重要と考えている。

また、武田薬品さんとの連携という意見をいただいた。重要だと思うため、また考えていくことも大事だろうと思っている。

●委員

交通の話で気になるのが島田駅の話。この資料の中に入るものではないが、こういう議論の場に、例えば、乗降者数の最新の情報であるとか、そういったものが補助資料としてついてくると、議論が深めやすくなる。

この辺りの情報がなく、どれだけ使っているかわからないけど大事だろうと言われると、議論することすら無くなるので、その辺り補助資料の部分が欠けているのではないかと。

実際、コワーキングスペースを運営する時に、どうやって立ち上げるかというところ、周辺駅に対して、どれだけ利用される人が多いかといったところも考えていきますし、そこからの距離感で、どれだけ利用される方というか、利用される方がいるかという情報を

考慮する。

統計情報を出していく、オープンデータの確実な推進であるとか、そういう部分で、他の市町よりも情報を出していくだけでも、このまちは誠実だと、嘘偽りなく情報出してくれるという安心感につながってくる。これが商工業の発展につながってくる可能性があり得るのではないかな。

●事務局

乗降者数等の補助資料があったほうが、議論が深まるのではないかとお話をいただいた。確かに議論を進めるときには補助資料があると、より深く話ができるが、総合計画という視点で、かなり幅広く今回は、議論を進めているので、その辺りの細かい話は、個別計画である地域公共交通計画といったところで議論を深めてもらうことも必要になってくると思う。

●委員

その理屈で行くと、島田駅を入れない理由にならない。入れない理由をどう説明していくかという、他のとこで扱っているから、省略しているという考え方もあるのだろうが、光と岩田だけをあげていることに対する説明がないのではないかと。

省略することを補う方法をどのように考えるかという視点が抜けているのではないかな。

●委員

根拠を示すことも大事だが、それはそれとして、私の意見は、あちこちに繋がるという言葉があって、それから全体をつなぐ話として、自然敬愛都市宣言をベースにするところがあるが、これは、市民は自然を敬愛しろと言っているのか。私たちは自然を敬愛する政治をすと言っているのか。いずれにしても、そんなことは当たり前で、敬愛してどうするのかということが無い。

イメージがわからない。例えば、自然敬愛都市宣言、光を公園都市にすると、公園都市宣言と言ったほうがまだわかりやすい。海の国立公園も県立公園もある。あるいは、住みよいまちづくりをすとか、住宅環境を良くしようとか、交通網を整備しようとかいうのは全部つながる話である。僕は、光で、スポーツ関係のいろんな団体、教育がトレッキングコース、散歩コースを作っている。素晴らしいと思う。これがもっと発展して、ウォーキングコースあちこちにある。トレッキングコースもある。サイクリングロードはどうかと、あるいは、ドライビングコースはどうかと。そういう道路網を整備していく、何のためかと言ったら全体を公園化するために、あるいはネットワークを便利にするため。そういう発想があってもいいのではないかな。そうすると、島田駅は外せない。室積も外せない。石城山も。コバルトラインも。島田川も。

●事務局

86 ページ、自然敬愛都市宣言のところ。こちらは自然の分野であり、自然敬愛都市宣言、自然敬愛都市の実現を掲げている。自然に対して個人の気持ちのモチよくなると思うが自然に敬愛、敬意を払って愛していくと。3つの都市宣言の1つでもある。光市自然敬愛都市宣言は、平成18年に採択された。光市の魅力は安らぎであり、自然環境、今言われた公園も含めて自然公園、石城山自然公園を含めて自然という魅力、このあたりをしっかりと敬意を払いながらまちづくりを進めていきたい。

●事務局

口頭で大変申し訳ないが、駅の利用状況について。ちなみに令和元年度の数字となる。光駅の年間の乗車人員が840,915人。1日平均で2298人。それから島田駅、乗車人員が191,084人。1日平均で522人。岩田駅140,533人。1日平均で、384人。

島田駅等について、置き去りにするものではなく、公共交通ネットワークの一つのポイントとしては、この項にもあげているとおり、やはり光駅、島田駅、岩田駅のこの3つの鉄道駅が重要という事で、そういうことも明記している。総合計画の他にも、例えば都市計画については、都市計画のマスタープランがある。都市計画のマスタープランの中では、都市計画上の位置づけとして島田駅を中心としたエリアや、岩田駅を中心としたエリア、光駅を中心としたエリア、そういった位置づけもある。室積等も含めてそういった記載もある。これは確かに市のマスタープランではあるが、他の計画中で島田駅の位置づけもはっきりとなされている事は、ご理解をいただきたい。

●事務局

統計情報に関して。確かにオープンデータ等については今、国の方でもデジタル化が進む中で、デジタルデータの活用が重要な課題となっている。今日の議論とは違うが、149ページにデジタル化の推進という政策を位置づけており、市民生活の利便性の向上、オープンデータ、ビッグデータ等の活用等も含めて、そういった物を活用することによって全ての市民が快適な生活をおくれる、また経済の発展につながるという事も想定して今後政策を十分検討しなければいけないと思っている。

●委員

ワクチンの接種について、感染者が今は出てないということ、皆の努力が結びついてきているということで感謝している。

9月からは少ない財政の中から1人5,000円の恩恵をいただいて、楽しみが出てくる一方で、財政が大丈夫かなという気がする。これも市民との繋がりの中での温かさ、生活の温かさからすれば非常にいいことだと思う。

光市の教育は、すごく先端を行っている。IT、オンライン教育。子どもたちが1年生

からノートパソコンで一生懸命使い方から勉強している。周防の小学校でも、小さな意見でも先生が見過ごさないよう、データとしてあがっていく。そういったいいところもあるので、こういう事をやっているというPRをすればよいのではないか。光の良さをPRしていただきたい。

●事務局

PRについては、市長も教育長もしっかりPRをさせていただいているつもりだが、足りないところがあれば、地域の皆さんの方からも、こんなところが良いなど、発信していただければありがたい。

●委員

農業について。直接イノシシ被害にあって、今年の自分の作物の半分を荒らされた被害者の1人である。特にイノシシはどうにもならない。今、業者の方でも有害鳥獣の駆除にかけて、一生懸命駆除の対策をしている。森林の整備の項目があるが、実態としてどこまで進んでいるか見えない。また問題になるのは地権者がどうなっているかということ。木を切ってよいのか。現地がどこまで早く進められるのかと、悩むところ。実際に狩猟免許も取った。しかし、狩猟免許を取ってどうするかというと、1人か2人しかいないという状況。イノシシは倍、倍、倍で増えていくのに、こうやって狩猟免許を1つ取ったと、喜ぶわけにはいかない。やはり行政の方で、担当の方は資格を取って一生懸命やっていますが。逆に猟友会など様々な駆除隊がいるなかで、もう少し駆除隊員を増やす形をとって欲しい。日中に、イノシシが里に下りて、民家の近くを歩くことが、学童がいると怖い。総合的に森林の整備、竹林の整備に力を入れていく。

島田川の河川工事を一生懸命やっても、竹がもう生えてきている。去年も一昨年も綺麗にしたが、笹が1・2メートル弱まで生えてきている状況であり、厳しい対応ができないと難しい。

財政的に非常に負担になって来ると思うが、快適なまちづくりをやると、町側の人は快適かも分からないが、山の奥の方は、どうしても有害鳥獣との戦争となる。今、我々がここで手放しにしてしまうと、いずれ町の中の住宅のへりも、かけ回る時代が来る。出来れば早い時期に対策をとってもらえると助かる。

●委員

有害鳥獣対策の件で1つ要望がある。光製造所の構内にもイノシシがいる。昨年、光市役所に駆除をお願いしたが、実際には手が出せないという意見をいただいた。餌、罠にイノシシが賢いため、入らない。具体的に有効な対策じゃない。

7年前ぐらいに狩猟犬、犬を使って1回大きいイノシシを退治してくれた。それをお願いしたいと言ったが、犬も年老いて狩猟犬を飼っている方々も少ないと、かつ犬が逆にイノシシから怪我をさせられたりするという事で、猟師の方もなかなか犬を使った駆除方法

に尻込みしていると。

それから光市内では銃を使うことも禁じられているということで、手が出ない、手がな
いという事を実際言われてしまった。市内、もちろん山近くがもっと大変な被害が現れて
いると思うが、この町の山の中でも、そういう被害があり、困っている所なので、そうい
うところには少し力を入れていただきたい。

●事務局

ありがとうございます。117 ページの有害鳥獣対策。今年度から、市の経済部に有害鳥獣
対策センターを新たに設置し、取組を始めている。また、光市の鳥獣被害防止計画を策定
しながら、計画的に進めていきたい。また、イノシシ等が出没しにくい、そうした生息地
の管理、この辺りをしっかりやっていきたい。

●委員

今、鳥獣対策センターは、何人ぐらい、どういう組織なのか。

●委員

5人か6人ではないか、よく分からないが。塩田、束荷、周防、特に塩田は何も出来な
い。サル、イノシシ、カラスが出て散々なものだ。行ったら分かるが、もう、あちこちに
大きな網をかけ、田んぼに鉄線、高圧線をかけている。

●委員

私が言いたかったのは、何人いるか聞いたのは、いずれにしても潤沢に人数・組織は揃
えられないのではないか。予算もそんなに取れないのではないか。そうであれば、どうす
るかという話。政策に組織力の強化や人材の育成があるが、市役所の人材の育成をしなけ
ればいけないかも知れないが、所詮、数が少なければ限界がある。やはり、市民の力を
借りざるをえない。その工夫が思う。若い人、現役の人、女性、あるいは仕事を持
っている人は、自分の仕事で精一杯だろう。僕らみたいなシニアの人間を、いかに安く、
上手く使うかという事をもっと研究する。そういう知恵を働かさないと。とてもじゃない
が、市役所だけで出来る話ではない。どうか。

●事務局

やはり光市の魅力は市民力であり地域力。これが光市を支えている。そういうご意見を
いただいたように、お力添えを頂ける、ご協力をいただきながら一緒にまちづくりを進め
ていきたいと思っている。

●委員

それは誰がやるのか。そこが一番大事。

●事務局

ごもっともな意見で、有害鳥獣対策センターも拡大など、人数を増やそうと。明らかに高齢化が進み、更に若い人、60歳位の人が入ってくれる展開になれば良いが、実際に声かけをしても、銃をもって撃ちにいき、罠をしかける事になるので、本当に加入者を募集する努力はしているが、加入してくれる人は殆どいない。

その中で、どうすれば良いかは、やはり先進市を研究しつつ、今のセンターの中で、やっぱり考えていかないといけないという認識は十分持っている。

●委員

今の鳥獣の話だけでは無く、まちづくり全体について言える。市として色々検討しますと言っているが、それを少し検討したくらいで、市役所の中から良いアイデアが出る訳もない、と言っては失礼だが。やはり英知を集めないといけない。その為にどうするかアイデアを出さないと。こういうテーマがあって、困っていると。市として、あれを研究している。あの知恵を集めている。というのをオープンにして欲しい。それこそITを使って、全部オープンにする。そうするとどこかから助けが入るかも入れない。知恵だってやってくるかもしれない。どうか。

●委員

ICTは万能では無い。少し話が反れるが、この一年半くらい、コロナの流れの中で、全世界で、サイトが作られて、それはGitHubというソースコードを共有して運営をしている。実はソースコードとかを運用するのは実際にノウハウのある専門家に投げて、そこから新しいものやソースアイデアを貰うなどオープンソース的な思想、ちょっと難しい言葉で申し訳ない。そういうオープンソース的な何かがあり、オープンなところの情報やアイデアが、市民力の部分に当たるのではないか。

こういう部分の活用は出来るのではないか。鳥獣対策の話でも、ICTという便利な言葉で書いてあるが、実際は万能なわけではない。だからこそ、プログラムを書いたりする方たちが連携をして、それは補助金等を活用して、そういう罠の設置とかIOT罠、そういった新しい研究開発をしていく。そういう新しいところで地域のエンジニアや技術者を活用していく、今までに無い新しい選択肢を作っていく。これは先進地には全くない事だと思う。先進地の事だけを考えていると新しい対策は出来ないと思う。今までに無い事に何でもいいからチャレンジしてみようというところが、今、大きな課題を突破する突破口になると思う。例えばキーワードの中に、少し強い言葉、強く表現するのであれば、例えば高専さん、ロボットの制御であるとか制御の部分との絡みという所から、高専との連携とか、産官学といったような表現が入って来るだけでも、もしかしたら未来が見えるような表現が出てくるのではないか。

●事務局

ありがとうございました。

●委員

コワーキングスペースという空間、新しい仕事の働き方、130ページに出てくるのだが、コワーキングスペースは、色々な方が場所を共有しながら仕事をしていくという、新しいワークスタイル。実は、このページの表現は間違いで、コワーキングが正しい。コワーキングスペースは場所になるので、コワーキングという働き方とか、コワーキングとかテレワークとかリモートワークという表現をして頂くのが適切。スペースが付くと場所を表すので、これは間違い。

この一冊の中に出てこないキーワードとしてワーケーションというキーワードが見えない。働きながら、バケーション・休暇との組み合わせで、実際には数日いると、最近テレビで観るのだが、あれは正しくはない。もっと長い期間の中、2週間とか1ヶ月とか、凄く長い期間で働きながら、お休みを取りながら、少し違ったワークスタイルトラベルが、正しい表現になる。これから関係人口、観光人口に繋がってくると思う。このようなキーワードが周辺の自治体に無いものであれば、一早く入れてしまう。入れておくだけでも気になる方が注目してくれるかもしれない。ワーケーションは、国が出しているキーワードだが、コワーケーションやワーケーション、入れるだけでも、この人たち何か知っているぞと、いう空気感が出てくる。

●事務局

ありがとうございました。

●委員

観光については、コロナの関係で、全くゼロに近いような状態。市外から、また市内からも動きが無いような状態。今、3市が連携する協議会があり、光・下松・周南、この3市において、例えば広島からの観光バスや、3市でのスタンプラリー、少しずつ協力しながら、やっている。ただ、光市は、交流人口、観光に対する交流が、大変少なく、頭を痛めている。特に今はITを使った観光を、市内外、全国へ発信していかないといけないと考えている。

ところで、室積の海岸に行くと、室積海岸の裏道がある。車のライトを消すと、真っ暗で、正面、何にも見えない。あと、虹ヶ浜海岸。途中で引き返してくる。特に女性は「怖い」ということだろう。一つ水銀灯か何か照らすものがあればよいと、観光協会の局長に、お話をさせていただいた。それと同時に、防犯灯。LEDは、中途半端な明るさで、逆に怖いような感じがする。今まで3基あったところが2基に減っている。その上で暗くなっているのです。気分も暗くなる。もう少し、この辺に置けばいいのにと感じる場所がある。

●委員

今日のような会議だと、言いつばなし、やりつばなしというか、記録して、出来たら前回こういう事をやったと。こういう発言があって、こういう答えがあった。記録的なものがあると少しほしい。

●事務局

この会議の議事録については、ホームページの方に公開している。

●委員

ワーケーションが出来る魅力的な宿泊施設が有るかどうかは大きいのではないかと。せっかく光市には虹ヶ浜、室積とビーチがあって割りと海外の人達も、日本に住む海外の人達もよく夏場は訪れる場所だと思う。そういう魅力を活かして、ワーケーションなどに繋がると、とても良いのではないかと。

冠山総合公園にキャンプ場があることを知らなくて、今、コロナ禍で、子連れの家族等が、どこかに行きたいけど中々行けない、そういうニーズにキャンプは凄く合っているのではないかと。その宣伝があまり上手く出来てないのではないかと。グランピングという言葉もあり、グランピングが出来る施設があると、ワーケーションとも繋がって、インターネットとかが有れば、そこで仕事出来る、ちょっと子どもたちが遊びながら仕事出来る、そういう環境があると凄く人が集まる魅力的な場所になるのではないかと。

私も明かりが少ない事はとても気になっていた。下松の恋路のグラウンドの周りをよく夜にウォーキングしていたが、その時に危険を感じる思いはしなかった。スポーツ公園で、夜に歩けるだろうと思って行ったところ、流石に奥の方は、少し怖いと思い、歩くのを止めた。近所で歩こうと思った時も、道の街灯も少し不安を感じる部分もあり、結局、ウォーキングの習慣がなくなってしまった。「光」という名前に合うような明るいまちだと凄く過ごしやすいと思う。

●委員

グランピングとは。

●委員

グランピングはキャンプとは少し違う、パーティーのような、贅沢感があるような感じ。

3 その他

- 事務局から今後の予定等について連絡
 - ・次回開催は8月30日（月）18時30分から予定している。

終了 20時05分